

英語科(各教科の概要・授業案)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024639

英語科

<研究主題>

主体性を高める授業過程

<主体性ある人間>

様々な状況や場面において、自己と集団・社会・ものとの関わりを意識しながら、

○自己や集団にとって価値あるものや課題を見付けだす

○自己や集団の取るべき行動を決定し、実践する

○自己や集団の決定や行動を振り返り、評価し、改善する

これらに、継続的に取り組むとともに、自己や集団を高め続けるよう努力する人間

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術

家庭

英語

<教科で育てたい生徒像>

英語を使って自己の思いや考えを正しく伝え合うことができ、自律的に学習に取り組む生徒

<教科で身に付けさせたい要素>

〔知識・技能〕【要素A】

- ・音声
- ・文字及び符号
- ・語、連語及び慣用表現
- ・文法事項

〔思考力・判断力・表現力・その他の能力〕【要素B】

- ・自己の思いや考えを言ったり書いたりして相手に伝える力
- ・読んだり聞いたりして内容を理解したり、それに適切に応じたりする力
- ・自己を振り返る力
- ・できるだけ平易な英語を用いて表現する力
- ・場面や状況を考え、適切に表現する力

〔関心・意欲・態度〕【要素C】

- ・インタラクション（対話）等のストラテジー（方略）を使おうとする態度
- ・誰とでもコミュニケーションを図り、自他の良さを互いに認め合おうとする態度
- ・異文化についてその差異を認め、積極的に理解しようとする態度

<教科テーマ>

fluencyとadequacyの両立をめざした授業開発
～Speakingの力を高めるために～

○ 教科テーマ設定の理由

情報であふれる現代社会。近年、パソコンやスマートフォンの普及によって、インターネットや SNS が急速に発達している。それらは様々な情報の取得を容易にするとともに、未知の人と人とのつながりを広げるツールでもある。一見私たちの生活は便利で豊かになっているように感じられる。しかし、それらの利便性の裏側で、人々のコミュニケーション能力の低下が叫ばれていることも忘れてはならない。インターネットや SNS を使えば、いつでもどこでも必要な情報を手に入れることができるし、他人と連絡を取ることもできる。それは、人と人との直接的なコミュニケーションの機会の減少を意味する。このような現代社会を生き抜く中学生に、学校という集団生活の場を通して、人と人とのコミュニケーションの素晴らしさを感じてほしいと私たちは考えている。

そこで、本校英語科では、「言語を介した仲間とのかかわりの中で、思いや考えを正しく伝え合う生徒の育成」をめざしたいと考えた。英語という言語を介して直接的に関わることで、相互理解を深め、よりよい人間関係を構築すること、そして、伝達すべき情報、目的や思い、意図を正しく伝えることで、さらに相互理解を深めてほしいと考えている。加えて、「自律的に学習に取り組む生徒の育成」にも焦点をあてたい。自律的に物事に取り組む姿勢は、人の成長に必要不可欠である。今はまだ学校の中という狭い環境の中での学習だが、そこで足を止めず、自律的に学び続け、学校外の社会、ひいては海外にも活躍の場を求めるような人間に成長してほしいと願っている。

そんな願いを実現させるため本校では、伝統的に、生徒が成長を実感することのできるまとめ活動として「くさび単元」を実施してきた。くさび単元とは、学期に1回程度、それまでの学習で蓄積してきた知識や技能を駆使し、様々な活動に取り組む単元のことである。くさび単元のトピックは様々で、これまで、架空の友達を対話形式で紹介して表現の幅を広げたり、家族への感謝の気持ちを紹介して手紙を書いたり、自分の学校のよいところをプレゼン形式で紹介して後輩へメッセージを残したりと、生徒の思いを大切に、生徒が主体的に興味をもって思いや考えを伝え合えるような数多くの活動を扱ってきた。多くの活動を通して、生徒は流暢に英語を話せるように成長する姿が見られた。

「間違いを恐れず、思ったことや感じたことを話そう」という方針のもと、活動を進めてきた成果を感じる一方、正確さがおろそかになっていることも事実であった。日本人同士、生徒同士の会話では、同じ環境で生活をしているため理解をすることができても、外国へ行き、実際に外国人を目の前にしたときに通じるかどうかというと、不安が残る。言語は、必要な場面で使えるようなものでなければ意味がないのである。

しかし、正確さばかりにとらわれてしまえば、生徒は間違いを恐れるようになり、自ら進んで話すことができない雰囲気になることも十分に考えられる。これも、言語の特性上、使わなければ意味がないし、相手に伝えることができないのである。

これらのことから、今年度は、流暢さを保ちながら、適切さ・妥当性を高めるための方策を模索していきたいと考え、教科テーマを「fluency と adequacy の両立をめざした授業開発～Speaking の力を高めるために～」とした。今までおこなってきた「くさび単元」を継続するなかで、振り返りの仕方を充実させたり、speaking 活動を繰り返しおこなったり、reading, listening 活動を充実させたりすることで、流暢にかつ適切に speaking する力を伸ばしていきたいと考えている。

○これまでの取組について

1 研究方法

- (1) 3年生のオリジナル単元“My Imaginary Experience” 1年生のオリジナル単元“Self-Introduction”に関して授業実践をおこない、生徒の追究用紙や生徒の様子を分析した。
- (2) 単元学習終了後、学習内容に関するアンケートを実施し、生徒の回答結果を分析・考察した。

2 1年生「Self-Introduction」における授業実践について

(1) 単元計画について

1年生1学期のまとめProjectとして「Self-Introduction」をおこなった。これまでに生徒はbe動詞，一般動詞を用いて自分自身について表現する方法を学んでいる。本単元では，友だちに向けて自分が自己紹介スピーチで伝えたいことをどのように表現するか，単元の終わりにおこなわれる全体発表に向けて，ペア発表やグループ発表を通して段階的に学んだ。(表1)

【表1 “Self-Introduction” 単元計画】

時	授業内容	主な要素		
		A	B	C
第1時	〈自己紹介スピーチをしよう・導入〉 ・既習表現を用いて簡単な自己紹介をする。 ・自己紹介スピーチで友達に伝えたいことをマッピングする。	○		
第2時	〈自己紹介スピーチをしよう・自己紹介で使われる表現を学ぼう〉 ・自己紹介で使われる表現を活用し，自分のについて様々な情報を伝える。 ・聞き手はアイコンタクト，相槌を意識する。		○	○
第3時	〈自己紹介スピーチをしよう・目標の設定〉 ・自己紹介スピーチのアイデアをもとに，自分が伝えたいことを原稿に書く。 ・自己紹介スピーチにおける話し手・聞き手としての目標を設定する。	○	○	
第4時	〈自己紹介スピーチをしよう・ペア発表〉 ・ペアでお互いの発表を評価して，自己紹介の内容や発表方法を検討する。 ・聞き手はアイコンタクト，リアクションを意識する。	○	○	○
第5時	〈自己紹介スピーチをしよう・原稿の修正〉 ・自己紹介文を正しく書くことができるか文法項目に着目して原稿の訂正を図り，正しい文を書く。	○		
第6時	〈自己紹介スピーチをしよう・グループ発表〉 ・小集団でiPadやボイスレコーダーを活用して発表の様子を記録し，お互いの発表を評価したり自分自身で発表を見直したりすることで，スピーチの完成を目指す。 ・聞き手は話し手に反応や質問を返すことを意識する。	○	○	○
第7時 第8時	〈自己紹介スピーチをしよう・全体発表〉 ・学級全体で自己紹介スピーチを行う。 ・聞き手は相槌，リアクションなどをして相手の思いを受け止めながら自己紹介スピーチを聞く。		○	○

本単元で特に意識した要素は以下の2つである。要素B「自己の思いや考えを言ったり書いたりして相手に伝える力」「読んだり聞いたりして内容を理解したり，それに適切に応じたりする力」の育成である。

単元を通して授業のwarm-upとしてsmall talkをおこない，生徒の身近な話題についてペアでの会話活動を実施した。会話活動を繰り返すことにより，既習事項を用いて自分を表現するだけでなく，自分の言いたいことをどのように表現したら良いのか考えることによって自己紹介スピーチに向けて言語材料を身につけていく。また，会話活動の中でeye contact, smile, big voice, gesture, reactionを意識するように働きかけた。特にreactionはI see.やMe, too.などの相槌から相手に質問を返すことで，よりinteractiveなやりとりとなるよう意識した。自己紹介スピーチが聞き手も

話し手も主体的に取り組むことのできる活動となるようにしたいと考えた。

(2) 生徒のあらわれ

① 追究用紙より

第4時のペア発表において聞き手は相手のスピーチを①アイコンタクト、②声の大きさ、③話すスピード、④スマイル・ジェスチャー、⑤内容(量・質)の観点から、A、B、Cの3段階で評価した。表2には、3回目の発表の評価の割合を示した。

【表2 ペア発表の評価】

	①	②	③	④	⑤
A	82.5	80	95	82.5	92.5
1 → 3 回目の増減	±0	+2.5	+12.5	-2.5	-5.0%
B	17.5	20	5	17.5	7.5
1 → 3 回目の増減	+2.5	-2.5	-10	+7.5	+5.0
C	0	0	0	0	0
1 → 3 回目の増減	-2.5	±0	-2.5	-5.0	±0

生徒はペア発表を通して話し手・聞き手として以下のような感想を述べている。

- ・文を覚え、最初から原稿を見ずに話せば、相手の目を見ることができたと思う。
- ・大きい声ではきはきと間をあけてスピーチができたのでよかった。
- ・相手が反応しにくかったようなので、もっとゆっくり落ち着いて話したい。
- ・相手がリアクションをしてくれたときはリアクション返しをすると思った。
- ・笑顔が足りず、聞きやすい雰囲気がつくれていなかったことが分かった。
- ・ジェスチャーは最初の Hello でしたり、数字を手で表したらよくなるのではと思った。
- ・分からない単語や文を調べて内容の濃いスピーチをつくりあげていきたい。

考察

1回目と比較して①～③での伸びが見られた。生徒の振り返りからは、eye contact, big voice に意識して取り組んでいる記述が多く見られた。自己紹介を伝えたい相手に伝えるための姿勢を大切にしようと考えている生徒が多い。また④では gesture を発表中に使えていないが、思いを伝えるための補助的な手だてとして今後取り入れていきたいと考える生徒がいた。一方で、⑤での低下が見られた。自己紹介文が短く、伝えたい内容が十分盛り込まれていないと感じている生徒や、一つのトピックに対して詳しく伝えたい時にどう表現するか単語を調べる必要があると考えている生徒がいた。

そこで、第5時では内容の再検討をおこなった。自分で見返すだけではなく、友達の自己紹介文を読んで文法の間違いがいいか確認したり、いい表現を共有したりすることで、自分の伝えたいことを表現する力を身につけさせたいと考えた。

以下に、生徒 A、B が全体発表で読んだスピーチ原稿を示す。

生徒 A の発表原稿

My name is~. Please call me~. I'm from Shimada. My birthday is February 7th. I'm twelve years old. I like basketball very much. I'm on the basketball team. But I'm not a regular player now. So I practice with sister every day. I have two sisters. Older sister is a junior high school student. She is thirteen years old. She is on the basketball team. She is very interesting. Small sister is an elementary school student. She is on the basketball team too. She is a regular player now. She is a friendly girl. My family is interesting. Thank you for listening.

生徒 B の発表原稿

Hello, everyone. I'm~. Please call me~. I'm twelve years old. I'm from Yaizu. I live in Yaizu. My birthday is July 27th. I have a brother. He is from Yaizu. I like sushi. I don't like ice cream. I'm good at abacus. I want a dog. I'm not on the team. I love Erika and Pooh. Erika is cool. Thank you for listening.

考察 生徒 A は自分の好きなバスケットボールについて、姉妹の話題に触れながら具体的に表現している。多くの生徒は、言いたいことに具体的な例を示したり、それに関連して内容を広げたりすることで、相手に伝わりやすいスピーチにすることができていた。一方で、生徒 B は既習事項を用いて自分の言いたいことを羅列しているが、文の脈絡があいまいで、伝えたいポイントが聞き手に伝わるスピーチとは言えない。また、そろばんについて伝えたい思いはあるが、abacus という単語を他の生徒は知らないため、発表では聞き手から理解が得られていない様子が見られた。

②アンケートより

- ・自分のことについて話すことによって話す力もついたり、相手のスピーチに対して反応するという力もつきました。「このことを言いたいときはどんな風を書くのか」と考えて書くという力もついてきました。eye contact, smile, big voice, gesture, reaction を意識してスピーチすることでそのことも身につきました。これからも 5 つのことについて頑張っていきたい。
- ・みんなまだ習っていない文法や単語を使っていてすぐには理解できなかつたけど、後に続く言葉の意味から「たぶんこういう意味」と予想を立てることができ、そのあと確かめまでできたので、後の自分のためになった。
- ・今回の学習で自分の自己紹介を英語するのが難しいと感じました。難しい上に、まだ英語の勉強を始めたばかりの私たちに理解できる単語を用いて自己紹介をつくるのはさらに難しく感じました。聞き手は、どのようにしたら気持ちよく話しが進められるのか、考えることができました。

(3) 本単元の成果と課題

<成果>

生徒は会話活動や自己紹介スピーチの発表で、eye contact, big voice, smileなどを意識して相手とやりとりすることができた。コミュニケーションマナーを養うことで、伝え合おうという姿勢が養われ、どの生徒も、自分のことについて一生懸命伝えようとする姿や相手のことをもっと知ろうという姿が見られた。自他の良さを互いに認め合おうとする態度が育成されつつある。アンケートから、多くの生徒が話す力、聞く力が身についたと実感していることが分かった。伝えるための語彙を課題としている記述も多く見られるが、本単元は今後の英語学習に対する動機づけとなったと考える。

<課題>

生徒は辞書を活用したり仲間に聞いたりしながら、自分の伝えたいことを英語でどのように表現するか自ら考えてスピーチ原稿を作成した。しかし、伝えたいことを表現する、相手に伝わるように表現するための語彙や文脈の中でそれらを活用する力が不足していた。第5時での原稿の見直しでも改善されていない生徒がいた。現時点で、生徒自身の力で改善していくことは困難であることが分かった。これは聞き手にも言えることであり、自己紹介スピーチにおいて未習の表現が使われた時に、生徒は相手のスピーチで伝えたいことを十分理解することはできない。今後、語彙知識を身につけることで、コミュニケーション活動がさらに「自分の思いが相手に伝わった」「相手の思いが分かった」という実感を持つことのできるものになると考える。

3 3年生 “My Imaginary Experience” における授業実践について

(1) 単元計画について

本単元では、絵を用いて、「架空の友だち」・「その人の出身地」・「夏休みにその人の家に行ってその家族に紹介する日本文化」を様々な視点からバランス良く話すことをゴールにすえ、そこに至る過程をMissionとして取り組んだ。

まず、Mission Iとして、人物紹介に取り組んだ。架空の人物を想像し、その人物の説明をおこなった。そこでは、ただ話をするのではなく、Taskとして4つの視点を持ち、各Taskにそれぞれ一定の文章をバランスよく話すよう心がけた。

Mission IIでは、場所について話す練習として、静岡県の説明を、Mission IIIでは、日本の伝統行事についての説明をおこなった。各Missionの中では、①最初にどれだけ話せるかの取組 (recording)、②話した内容の文字興しと加除修正、③小集団・全体で、自分が英語で言えなかった言葉の検討、④再び、同じ内容についてどれだけ話せるようになったかの取組 (recording)、⑤話した内容の文字興しと加除修正をおこない、流暢さを保ちながらも、より適切に表現する方法を模索し、ゴールへと向かっていった。(表3)

【表3 “My Imaginary Experience” 単元計画】

時	授業内容	主な要素		
		A	B	C
第1時 第2時	<Picture Talk 1> ・写真を見せて想像力を働かせ、その人物についての紹介をする。 Task I ・住んでいるところや期間について ・職業について ・生い立ちについて ・得意なことや苦手なことについて	○	○	
第3時 第4時	<Picture Talk 2> ・写真を見せて想像力を働かせ、地域についての説明をする。 Task II ・サイズや形の説明 ・特産物やその地域の特徴について ・隣接する地域との境界について ・住んでいる人たちについて	○	○	
第5時 (本時) 第6時	<Japanese Culture> ・日本の伝統行事について紹介する。 Task III ・行事の内容 ・いつおこなわれるのか ・どんなことをするのか ・何のためにおこなうのか ・その行事に関する自分の経験	○	○	
第7時 第8時	<Imaginary Friends 1> ① Imaginary Friend/Person ② Imaginary Friend/Personの出身地 ③ Imaginary Friend/Personの家族に紹介したい日本文化 ④ ①～③の内容を考え、絵で表現する。			○
第9時	<Presentation 1> ・小集団での発表会①		○	○
第10時	<Reflection 1> ・voice recorderを使って文字興し、目標達成度の確認	○	○	
第11時	<Presentation 2> ・小集団での発表会①		○	○
第12時	<Reflection 2> ・voice recorderを使って文字興し、目標達成度の確認	○	○	

(2) 生徒のあらわれ

① 追究用紙より

各MissionとそれぞれのTaskにおける生徒1人平均の英文の量と正確性を表4より示す。

【表4 Mission I 〈人物紹介〉】

Task	関係・現況・仕事	生まれ・家族	興味関心・経験・継続	その他の情報
2回目の英文の数(文)	4.65	4.58	4.92	3.37
1→2回の英文の増加(文)	0.62	0.89	0.28	-0.1
2回目の英文の正確性(3点満点)	2.49	2.37	2.31	2.03
1→2回の正確性の増加(点)	0.32	0.37	0.25	0.13

考察 1回目と2回目の人物を変えたため、単純な比較はできないが、2回目の英文では、いずれも平均して5文近く書いており、正確性の方でも、点数の伸びが見られた。また、下の図①のように、1回目 비해、2回目の方が現在完了形や受け身の文を使う回数が増え、1文がより長く言えるようになった。

Experience / Interests

He likes ^{the} sports very much.
 He can play baseball and basketball and soccer and soon.
 He likes baseball the best. He can play it but he likes watching ^{it} baseball better than playing ^{it} baseball.
 He likes his sisters and brother very much.
 When they come to Japan, he ^{took} many famous places in Japan. for example Tokyo sky tree and, Asafusa and, Kamakura and soon.

Others

He likes ^{many famous Japanese} Osushi very much.
 They can eat osushi in SF, too.
 But he likes Japanese one.

Class (C) No (1) Name (Koki Aizawa)

Experience / Interests

She likes Japan ~~very much~~. Her hobby is to learn about Japan.
 She has been to Japan once. She came to Shimada.
 She visited Horiabridge, my home and Ochanosato, and soon.
 She likes Supermarket ~~very much~~. American supermarket is ^{much bigger than} Japanese one.
 And we can buy pies, breads ~~and~~ snack and many sweets.
 Americans life snacks, sweets, juice.
 So she is not good at cooking.
 But she has made a cake ^{her cakes} forme. It was very pine and delicious.
 I wanted to many ~~ones~~, but she doesn't like cooking so I couldn't ~~some day~~ I ^{hope} to eat ^{her} cake ^{some} day.

Others

She doesn't cook every day.
 Because she is very busy and she likes go shopping.
 Next year, she ^{will} come to Shinoda.
 I'm looking forward to it.
 And I want her to make cake for me.

Class (C) No (1)

【図1 人物紹介】

【表5 Mission II 〈静岡の紹介〉】

Task	大きさ・位置・形・人口	産業・産物・特徴	住んでいる人たち	その他の情報
2回目の英文の数(文)	4.99	5.49	3.55	3.82
1→2回の英文の増加(文)	0.4	0.68	0.7	0.4
2回目の英文の正確性(3点満点)	2.6	2.56	2.19	2.29
1→2回の正確性の増加(点)	0.29	0.27	0.26	0.25

考察 Task1.2 土地の言い方や産業などの話で平均5文前後書いており、話をふくらませることができていた。一方、人々について話をするのに苦労してるように感じた。これについては、人々をひとまとめにしにくかったことが考えられる。実際の英文を見ると、人物の時と同様、2回目ではより具体的にわかりやすく伝えられるようになっていと感じる。

about prefectures!

Products / Characteristics

And Shizuoka has many famous things.
 Shizuoka has many things that is the best in Japan.
 For example green tea, sakuraebi, and unagi. And sea
 Shizuoka's products is the best in Japan.

Hawomatsu is famous for piano and unagi. And tea is famous for baby tea. Asagai's milk is best. I think.

I live in Shimoda.
 Shimoda is west of Shizuoka.
 And it's famous for green tea and roses.
 It is so nice city, I think.
 Shizuoka has team expert and all way.
 and the car ride and it is nice in autumn.

Others

about prefectures!

Products / Characteristics

And Shizuoka is famous for many things.
 For example sakuraebi, unagi, piano, green tea and so on.

But people in Shizuoka can move easily because Shizuoka has many ways to move.
 A few years later, senior motor car will start to move in Shizuoka. But it move on northern part of Shizuoka. So we can't ride it in Shizuoka.

I live in Shimoda.
 Shimoda is famous for green tea and rose.
 It's very nice city I think. But it's not so big city. So we can't move around the city easily.
 Shizuoka isn't perfect but not bad.

Others

【図2 静岡県紹介】

【表6 MissionⅢ 〈日本の伝統的行事の紹介〉】

Task	いつ・どのように行う	なぜ・何のために行う	何をするのか・経験	その他の情報
2回目の英文の数(文)	3.48	3.75	5.57	4.04
1→2回の英文の増加(文)	0.56	0.72	1.04	0.57
2回目の英文の正確性(3点満点)	2.23	2.16	2.6	2.36
1→2回の正確性の増加(点)	0.25	0.28	0.35	0.39

考察 このMissionでは、いくつかの伝統行事の中から1つを選んで、そのことについて述べたものだが、経験談について語るができる生徒が多くいた。知識がない分、task1.2の項目については、苦戦している生徒が多くいた。この取組についても、1回目よりも2回目の方が質の高い英文を伝えることができた。

When / How

It is a festival for girls. We put dolls in March every year. In Japan people usually put the dolls in March. But in Shimoda, Shizuoka, we put them in April. It's a culture in the western part of Shizuoka.

What do people do? / Your Experience

My mother have to prepare for the new grade, and Hinamatsuri, the dolls festival. So my mother is very busy in April. So these years, I help my mother and put the dolls together. I have to dolls for the dolls festival. I like it very much. My grandmother gave me when I was born. There are many dolls. So to put dolls perfectly is very difficult. So I don't like to put them in April. But I like to watch them. I like to put them perfectly.

When / How

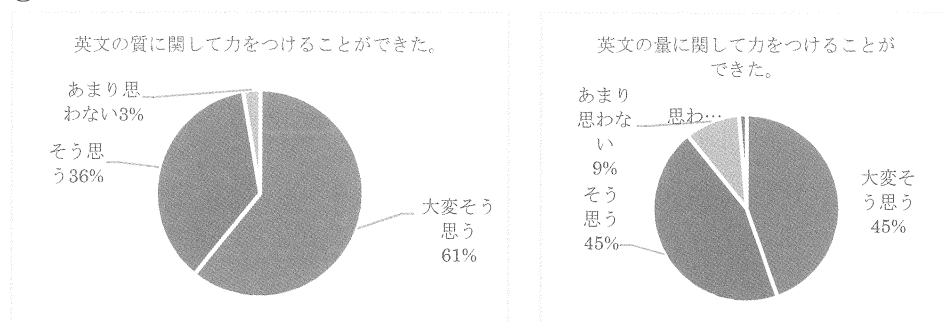
Hinamatsuri is a Japanese traditional event for girls in March. In Japan, we put the dolls in March. But in Karoya of Shimoda, we put in April. It's a custom, I think.

What do people do? / Your Experience

We make a hinadan with our family. It's so hard work. And we put so many dolls for us. I have a hinadan, and many dolls. They don't like it. To put dolls perfectly is hard for me. So we put them early every year. So I can't put them by myself. So my father and mother help me every year.

【図3 伝統行事紹介】

②アンケートより



【図4 アンケート結果】

英文の質や量に関するアンケートを実施したところ、上の表のような結果が出た。また、生徒の言葉からは、次のような言葉があった。

- ・和文和訳の違いから、自分では思いつかなかった説明も加わり、レバートリーが増えた。
- ・言い方（表現）の違いで文の難しさが全く変わることを実感した。自分とは違う表現の人がいると、すごく面白いなと思った。個性が出ていてすごく楽しかった。
- ・皆で英文を考えることが、今ある英語の能力を使って伝える練習になった。
- ・難しいし、うまくできないし最初は正直、早く終わって欲しかった。でも、難しくても、2回目には、1回目よりもずっとたくさんの文をスラスラ言うことができ嬉しかった。最後には活動が楽しいと思えた。
- ・習った単語をうまく使い、表現するというのが、少しずつできるようになってきた。
- ・わからない言い方をわからないままにするのではなく、様々なアイデアを知ることができたので、説明や発想の幅が広がった。
- ・皆で英文を考えることで、言いたかったことが言えるようになり、2回目で使ってみたくなった。
- ・一見難しそうな日本語も、これまで習ったことを生かして、表現することができるようになった。
- ・まとめの活動で、自分で作った人について設定を考えたり、絵を描いたりするのが楽しかった。周りとの喋りながらなので、わからない表現や単語なども、すぐに相談できてよかった。アドリブで話すので、最初のうちは慣れなくて文章も少なかったですが、最近では、言えない言葉を違うものに言い換えることができるようになった。文章を書く方も、前よりスラスラできるようになった。
- ・書き出しをすることでどこを間違えて話しているのか知る機会となりました。
- ・短い時間で考え、話すという力がついたと思う。

(3) 成果と課題

〈成果〉

生徒の追究用紙からみられるように、1回目と2回目の取組では、2回目の方がすべての面において伸びが見られる。また、事後アンケートからは、英文の質・量ともに、英文を書き出し、自分で修正し、友達との英文の練り合いをすることの効果を感じられた。特に質の部分では、実際に書かれた生徒の英文を見ると、1回目よりも長い英文を使い、かつ、相手に伝わりやすい英文で書かれていることが見て取れた。このことから、今実践は、今回英語科で取り組んでいる fluency と adequacy の両立をめざす上で、一定の効果があったと思われる。

また参観者からは、ワークシート（追究用紙）が効果的であったという意見をいただいた。ワークシートややり方を工夫することで、公立中学校でも取り入れることができそうである。

〈課題〉

英語はコミュニケーションの道具であり、誰に対して話すのが大事になる。今回の取組では、場面設定はしたもの、相手の生徒（日本人）に向けて日本の伝統行事を説明する取組をした。生徒は、一生懸命に取り組んでくれてはいたが、充実感には欠けていたように感じた。

また、各項目に対してどのくらいの量を話せたか、という視点で取り組んできたが、テーマによって話しやすいところと話しにくいところが出てくる。知識があれば話せるが、知識がないために話すことができない生徒もいた。どのようなテーマで何を話させるかを考えていく必要があると感じた。

何をもって流暢とするのか、何をもって適切さとするのかをはっきりしておく必要があるというご意見をいただいた。今回の取組では、生徒が何を話すのか調査をする目的もあったので、今後の取組へとつなげていきたい。

4 今後へ向けて

本年度は「fluency と adequacy の両立をめざした授業開発」に向けての取組をしている。まずは、現在生徒が何をどのように話しているかを知ることを目的の一つに今回の取組をおこなった。今後、生徒が話した内容を洗い出し、今後の具体的な目標設定につなげていきたい。